

住んでよかった！暮してみたい！緑の里

常磐東学区

TOKIWAHIGASHI



未来に伝えたい 学区の宝

平成27年度の常磐東小学校の児童にアンケートを実施して、未来に伝えていきたい学区の宝をみんなで考えました。



Q 学区の自慢できるところは？

BEST 1! 「緑、川、自然が豊富」(21名)

- ・「大柳の夏祭り、米河内の祭太鼓、新居の春祭りなど、学区のお祭りがいっぱい」(10名)
- ・「夏の灯ろう流し」(6名)
- ・「獅子舞」(5名)
- ・「常磐東小学校の全校生徒が仲よし」(5名)
- ・「常磐東小学校にツリーハウスがある」(3名)
- ・「長光寺の昔話」(3名)
- ・「青木川の鯉のぼり」(2名)
- ・「お年寄りとお話できる場所」(2名) など



Q これからどんな学区になってほしい？

BEST 1! 「このままの自然や空気のおいしさを保ちたい」(12名)

- ・「もっと緑が増えてほしい」(4名)
- ・「美しい景色がいっぱいの学区になってほしい」(2名)
- ・「もっとスーパーが増えてほしい」(2名)
- ・「学区を大切に、みんなが学区のために役立てるようにしていきたい」(1名)
- ・「子どもがもっと増えてほしい」(1名) など

Q 学区の自慢できる遊び場所は？

BEST 1! 「青木川」(5名)

- ・「米河内の3公園、大柳の公園」(6名)
- ・「こどもの家」(4名)
- ・「米河内八幡宮」(3名)
- ・「小学校の裏山」(1名)
- ・「長光寺」(1名) など

Q 学区の好きな景色は？

BEST 1! 「常東ランドからの眺め」(11名)

- ・「新東名高速道路からの眺め」(4名)
- ・「秋の山と川、春の花と緑」(4名)
- ・「春のさくら階段」(1名)
- ・「開元の里からの眺め」(1名) など

自然がいっぱい！

緑とともに生きる子供



編集後記

岡崎まちものがたり作成委員会に携わり、常磐東を見渡したとき、普段感じたこともない先人たちの努力と英知や歴史と風土など新たな魅力を見つけて感嘆しました。常磐東は、小学校とともに歩んできましたが、児童数が減少し今後の対応が必要です。人口の減少と時代の変遷により、伝統や風習が失われたものもあり、今後は先人から引き継いだ文化や歴史、美しい自然を守り続けていくのが今を生きる私達の使命だと考えています。

〔作成委員会〕 中根十四春/中根良夫/鈴木正則/大山喜充/中根昭寿/近祐一/中根正好/近藤嗣郎/鈴木康子/畔柳豊/権田芳治/鈴木雅晴/金原千亜紀/鈴木英治/中根成寿/中根義夫/加納やす子/長谷川憲隆/大谷新治

〔参考資料〕 常磐東小学校100周年誌/常磐東のむかし/続常磐東のむかし/おさぎのむかしばなし/滝山寺縁起
〔表紙写真〕 「伝統ある学区合同大運動会」常磐東小学校運動場に常磐東小学校児童、常磐東学区住民が集合(2016年5月28日撮影)



1 明治34年に3学校を統合して誕生した鼎(常磐東)尋常小学校。安戸・大柳・新居・小丸・蔵次の5町とともに、米河内町の子どもたちもここで学んだ



2 昭和10年に東分教場を廃止。翌11年10月に校舎を増改築し、11月より独立して旧常磐東小学校を開校した



3 昭和37年まで続けられた田舎歌舞伎。毎年10月の八幡宮例大祭の余興として、八幡宮の境内の回り舞台上で演じられていた



4 現在の常磐東小学校。昭和62年4月、創立85年を機に米河内町と合併して、安戸町から米河内町内に校舎を移転新築した



5 高齢化社会や過疎化などに対応し、世帯がその実情に応じた住み方を選択できる同居住宅、開元の里。三世代宅地供給事業により、平成4年11月に完成した



6 開通に先立ち、平成24年11月に行われた新東名高速道路に絵を描く会。全校児童53名が「描こう!常磐の自然・夢を。学校の空に」をテーマに絵を描いた

常磐東学区の変遷

- 一九〇一年 ■ 明治 34
- 一九〇六年 ■ 明治 39
- 一九一五年 ■ 大正 4
- 一九二〇年 ■ 大正 9
- 一九三一年 ■ 昭和 6
- 一九三二年 ■ 昭和 7
- 一九三五年 ■ 昭和 10
- 一九四一年 ■ 昭和 16
- 一九四七年 ■ 昭和 22
- 一九四九年 ■ 昭和 24
- 一九五四年 ■ 昭和 29
- 一九五五年 ■ 昭和 30
- 一九六〇年 ■ 昭和 35
- 一九六二年 ■ 昭和 37
- 一九八一年 ■ 昭和 56
- 一九八三年 ■ 昭和 58
- 一九八七年 ■ 昭和 62
- 一九八八年 ■ 昭和 63
- 一九八九年 ■ 平成 1
- 一九九一年 ■ 平成 3
- 一九九二年 ■ 平成 4
- 一九九七年 ■ 平成 9
- 一九九八年 ■ 平成 10
- 二〇〇一年 ■ 平成 13
- 二〇〇四年 ■ 平成 16
- 二〇一〇年 ■ 平成 22
- 二〇一五年 ■ 平成 27
- 二〇一六年 ■ 平成 28

米山・大柳・福田3校を合併、**鼎尋常小学校**として開校(4月)…。村合併により**鼎尋常小学校**を廃止、**常磐東尋常小学校**が開校(12月)学区変更により米河内を分離。通学区域は、安戸・大柳・新居・小丸・蔵次(4月)

蔵次発電所・安戸発電所が完成

県令により常磐3小学校廃止。常磐尋常高等小学校を設置。本校は東分教場(5月)

豪雨による青木川の大洪水。常磐橋、日影橋、広見橋の3橋落橋、安戸神明宮流失(7月)

東分教場廃止、常磐東尋常小学校が独立して開校(11月)…。国民学校令施行により校名変更、常磐村立常磐東国民学校と改称(4月)

常磐村立常磐東小学校と改称(4月)

若葉子ども会の前身「遊び会」が発足(5月)

須山、柳地区児童15名転入。越境通学の委託解消(11月)

常磐村の岡崎市合併により、岡崎市立常磐東小学校に改称(2月)

米河内町字日影地内の青木川河川改修完成(3月)

新居町地内の道路改良が終了(3月)

常磐地区有線放送が開始(4月)

米河内町で田舎歌舞伎の最終公演が行われる(10月)…。米河内町で開元通宝を含む古銭二五三五枚が発見される(↓地図L)(1月)

安戸町でシイタケ菌床栽培が始まる

常磐東小学校が米河内町に新築移転・学区変更により米河内町を編入(↓地図H)(4月)…。常磐東学区市民ホーム完工式(10月)

蔵次町く安戸町間の市道改良が終了(3月)

安戸町く小丸町間の市道改良が終了(3月)

常磐東学区こどもの家が完成(5月)

岡崎市で初となる三世代住宅、開元の里が完成(11月)…。独立行政法人家畜改良センター岡崎牧場が完成(6月)

常磐東小学校前の青木川にせせらぎ広場が完成(6月)

常磐東小学校創立100周年・移転新築15周年記念式典

常東ランド展望台が完成(11月)

大柳町須山地区の水道給水開始により、常磐東学区の未給水地区が解消(3月)

常磐東小学校が全日本学校緑化コンクールにおいて文部科学大臣賞を受賞

記念事業として東屋が完成(3月)

常磐東小学校が全国防災コンテストで防災マップ優秀賞、子ども防災賞を受賞(3月)

新東名高速道路(豊田東JCTく浜松いなさJCT)開通(2月)…。

学区には松平元康(後の徳川家康)が使ったといわれるお椀も残されている



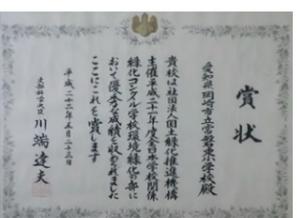
常磐東の歴史文化と伝統

山間を流れる青木川の下流域に古墳が点在しているため、古来からの生活圏であったと考えられている常磐東。源平の壇ノ浦合戦(1185年)があった時代には、滅びた平家落武者が青木川沿いの山里でひっそり集落をおこしたという言い伝えも。その後は桶狭間の戦い(1560年)で今川方が信長に敗れたことを知った松平元康(後の徳川家康)が一時的に蔵次で身を隠していたともいわれています。今日の緑豊かな里山と清らかな青木川の自然は、幕末から激動の明治・大正・昭和に至る時代を力強く生き抜いた先人達の努力の賜物。緑と共に生きる常磐東の暮らしは現在も脈々と継承されています。

常磐東学区の教育

明治34年に鼎尋常小学校として開校してから、平成28年度で115周年を迎えた常磐東小学校。学校の裏山につくられた「常東ランド」には展望台やツリーハウス(↓地図I)があり、校内にも「さくら階段」「うめちゃんり」などの施設や約80種の木々があります。平成22年には緑化日本一の文部科学大臣賞を受賞。防災教育にも力を注ぎ、平成26年度に全国2位の防災マップ優秀賞を受賞しました。

学校・家庭・地域の絆を一層深め、知徳体の調和のとれた子ども育成に努めています。



常磐東の地場産業の変遷

長きに渡り、自然豊かな里山を守る林業と青木川沿いの狭小な土地を開墾した農業を主体としてきた常磐東。大きく転換したのは明治以降でした。農業の傍らで養蚕が盛んになり、その後は地の利を活かした石材採掘業が台頭。良質な御影石が豊富に切り出され、特に昭和40年以降は石灯笼作りの石屋が軒を並べていました。

一方、水力を利用したガラ紡は、苦難な時代を経た終戦直後からは大ブームに。原料は国内自給が可能で、大規模設備も不要なことが、深刻な物資不足の時代に脚光を浴び、紡いだ糸が高値で売れていく「ガチャマン景気」の時代が続きました。また、昭和30年頃から始まったシイタケの原木による自然栽培は、現在では安定した収穫と出荷が見込めるハウスでの菌床栽培が行われています。



学区で採掘された良質な御影石でつくられている石灯笼

DATA

人口	1,223人	世帯数	430世帯
男性	608人	面積	15.13km ²
女性	615人		

[2016年7月1日現在]

G 新居のやぶつばき
別名はやまつばき。きれいな赤い花は3月下旬ごろが見頃で、花蜜を求めメジロやウグイスの溜まり場となる。幹周りは約1.8m、樹高は約11m、樹齢は推定200年



H 旧常磐東小学校跡地碑
常磐東小学校が学区変更に伴って米河内町へ移転した昭和62年4月に建立。なお、旧常磐東小学校跡地は安戸町公民館と運動広場として広く一般に活用されている



常磐東学区はお祭りが盛んです

子安観音祭	7月中旬
米河内町盆踊り	8月13日、14日
米河内八幡宮	10月第2土曜日
安戸神明宮	10月第2土曜日
大柳八幡宮	10月中旬
新居八幡宮	10月第2日曜日
小丸八幡宮	10月上旬
蔵次熊野神社	10月15日



約80mの高さ!



B 浄土真宗本願寺派の法輪山長光寺
寺宝として親鸞聖人の木造が安置されているほか、代々の住職が大名の格式で利用したといわれるおかげも残されている。本堂の正面上部には、竹やぶの中で吠えているトラの彫刻があり、今にも飛び出してくるほどの迫力で知られる



A 子安観音
大沼街道沿いにある子安観音。毎年7月の中旬には子安観音祭もある。寛政の時代に安置され、お祈りすると難産を避けられるとい伝えられている



D 牛落溪谷
この付近は昔から大沼街道の交通の難所といわれており、これにまつわる昔話も残されている。一の滝から四の滝まであり、この落差は30mであるうか



C 辻のやまざくら
新居辻にある大樹、山桜。放射状に伸びた枝から咲く花は、緑の中に扇を開いたような眺めとなり、4月上旬ごろに満開を迎えて春の訪れを告げる。樹高は約15m、樹齢は推定150年



L 開元通宝の出土記念碑
昭和56年の開元通宝を含む大量の古銭出土を記念してつくられた記念碑。開元の里という三世代住宅の名称もここからつけられた



K 青木川の鯉のぼり
毎年4月下旬から5月上旬にかけて、常磐東小学校前の青木川に飾られる。新東名高速道路の高架を背に、たくさんの鯉のぼりがそよ風に揺られる姿を楽しめる



J 常磐東小学校の樹木文字
常磐東小学校の南側斜面につくられている。平成2年に茶の木の苗で「トキワヒガンシ」の文字を植樹、平成5年にキンメツゲで植替えを行った



I 常磐東小学校のツリーハウス
平成27年2月、常東ランドの頂上に完成した常磐東小学校の自然観察基地。自然と人間が共生する里山のシンボルとして、学区の子どもたちにも愛されている



COLUMN F 常磐東学区に伝わる 亀石の伝説
昔むかし、新居町八幡宮の近くに石橋があり、その下の川には深い穴がありました。ここに落ちて死んでしまう子どもが多く、不思議に思われて調べてみると、穴の底に大きな亀のかたちをした石が見つかったといわれています。これを掘り出して、八幡宮のお手洗い鉢の横に飾って以後、新居では川で死ぬ者がいなくなると伝えられています。

COLUMN E 3種類のホタル飛翔地
運が良ければゲンジボタルやヒメボタルなど2、3種類のホタルが乱舞する光景を見られる観賞スポット。見頃の6月中旬ころになると、ホタル観賞会も開催されている。

3種類のホタル

- ゲンジボタル 15mm
- ヘイケボタル 10mm
- ヒメボタル 7mm

常磐東の自然と歴史をめぐる

まちものがたりマップ
マップ上を横断する県道477号は、かつて蒲郡から長野県の塩尻まで通じる「塩道」といわれていました。いまま県道沿いには隠れた自然や名所が多く、歴史探検もできます。そして平成28年には地上約80mの高さに新東名高速道路が開通。市制100周年の節目に新たな歴史と景観が加わりました。



熊野神社のどぶろく祭り

平家の落武者が住みついた土地といわれている蔵次町。毎年10月15日に行われる熊野神社秋祭りは、別名「どぶろく祭り」として有名です。氏子の手造り醸造したどぶろくを参拝者に振るまう伝統行事で、同様の祭りは規模の大きさこそ違うものの、岐阜県の白川郷、富山県の五箇山でも行われており、いずれも平家ゆかりの地であることが共通しています。



- 1 蔵次町の住民が平家の末裔にあたることは、熊野神社本殿の舞台の幕や提灯の紋が平家の代表的家紋であることから明らかである
- 2 どぶろく祭りの祭典と振るまいは、数戸の集落により古来から途切れることなく引き継がれている

秋 どぶろく祭りと 巫女の舞、奉納太鼓



米河内八幡宮の 秋の例大祭

- 3 10月の例大祭で行われる巫女の舞。厳粛かつ優雅な舞が見る人の心を和ませる
- 4 子どもたちが一生懸命に練習してきた成果を披露する奉納太鼓。勢いのよい太鼓の音が響き渡る

毎年10月の米河内八幡宮例大祭では、中学2年生の女子による巫女の舞い、子どもたちによる奉納太鼓が行われています。米河内八幡宮は第15代応神天皇を祭神として、戦国時代にあたる永禄12年(1569)に創建されたといわれる由緒ある神社。常磐東学区では八幡宮を中心として、大切な歴史や教訓が親から子へ、子から孫へと伝承されてきた歴史があります。

自然と調和する 常磐東の四季

常磐東は山の緑と川の流れから、四季折々の季節感や原風景が楽しめる「まほろば」の里。歴史も古く、古墳時代に遡るといわれているため、古来からの伝説や伝統行事も多く、学校をよりどころに人々の暮らしの中で脈々と引き継がれています。その一端を紹介します。

春 長光寺と 学区合同運動会



春の長光寺は見事なシダレザクラとホンバシヤクナゲが有名です。シダレザクラの見ごろは3月下旬、ホンバシヤクナゲの見ごろは4月下旬。いずれも樹木や枝張りの一面にピンク色の花を咲かせます。また、学区の大切な行事である常磐東小学校学区合同運動会が開催されるのもこの時期。学校や地域、保護者の皆さんが競技などを通して絆を深めます。

- 1 長光寺の境内にシダレザクラが植えられたのは江戸時代の後期。宇頭町にある聖善寺のシダレザクラの実生苗が植えられた
- 2 長光寺の15代住職が明治初頭に鳳来寺産のホンバシヤクナゲの苗木を裏庭に植えたもの。樹齢は約150年、樹高約5mの大木に成長している
- 3 毎年春に開催される常磐東学区の合同運動会。老若男女の皆さんによる演技、子どもたちの競技などに多くの方が大声援を送る



3 大迫力の音と光を放ちながら大輪の花を咲かせる大花火。たくさんの人がその美しさに魅了される



1・2 毎年、青木川に願いや決意などを書いた文字がほんのりと浮かび上がり、次々と途切れることなく流れていく灯籠流し



夏 灯籠流しと大花火

灯籠流しは平成21年度から、大花火は平成23年度から始められ、毎年7月下旬に社会教育委員会の主催で行われる年中行事です。虫の声、川の水音だけが聞こえる夜の青木川。静かな川面を優しい灯籠の光がゆっくり流れていき、まさに幻想的な世界が演出される灯籠流し。そして山間の満天の星空に小学校の校庭から打ち上げられる大花火。音と光による美しい光景が楽しめるため、毎年多くの人で賑わい、それぞれに家族の絆を深めています。



冬 火の用心、元旦祭、 消防団の出初放水



- 1 五穀豊穡や町民の安全を祈願するため、毎年数多くの方が参拝に訪れる大柳町の元旦祭
- 2 新居町など各町で早朝に実施される消防団の出初放水。郷土を守る消防団の頼もしさが感じられるひとときである
- 3 安戸町に古くから受け継がれている良き伝統の火の用心。大人から子どもまで寒さに負けずがんばっている

火の元の注意を喚起する火の用心。1月1日の早朝に町民がそろってお参りする元旦祭、そして元旦の風物詩ともいえる消防団による出初放水など、冬の季節にもさまざまな伝統行事が行われます。

火の用心!

